

## **第4章 重点プロジェクト**

この章では、望ましい環境像の実現に向けてより計画の実効性を高めるため、優先して取り組んでいく3つの重点プロジェクトを示します。

# 1 重点プロジェクトの位置づけ

望ましい環境像の実現に向けて、環境の保全等に取り組んでいくためには、多岐にわたる施策を推進していくことが必要です。

ここでは、計画の実効性をより高めるために、主要課題を踏まえて、優先して取り組んでいくための重点プロジェクトを設定します

重点プロジェクトの推進にあたっては、庁内の関係部署が横断・連携して取り組みます。また、町民や事業者等による環境保全行動の実践を先導し、持続可能な社会への貢献に向け、各主体が協働することによりプロジェクトの展開・浸透をはかっていきます。

## ●重点プロジェクトの推進を通じて貢献するSDGsの目標

目標 7 すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	
目標 11 都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエント（強靱）かつ持続可能にする	
目標 13 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る	
目標 17 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	

## 2 重点プロジェクト

### (1) 狭山丘陵をはじめとする自然環境との共生の取組

- ・ 町内のボランティア団体、NPO、専門家との連携のもと野生生物の生息環境の保全について啓発を行います。
- ・ アライグマ、ハクビシン、アメリカオニアザミなどの外来生物対策をすすめます。
- ・ 瑞穂町郷土資料館「けやき館」などを拠点とし、町の自然と共生してきた歴史・文化、自然環境や生物多様性に係る情報を発信します。

#### 取組による波及効果

- ▶ 町外からの来訪者の増加
- ▶ 観光振興、地域活性化

### (2) 緩和策と適応策を両輪とする地球温暖化対策の推進

気候変動による影響に対し、町民の健康や生活環境の確保をはかるため、温室効果ガスの排出抑制等を行う「緩和策」とともに、地域特性に応じた「適応策」を両輪として取り組んでいきます。

- ・ 公共施設での再生可能エネルギーの利用をすすめます。
- ・ 再生可能エネルギーの利用に係る町民・事業者への情報提供・発信を行います。(太陽光発電・蓄電池による電力の自家消費など)
- ・ 気候変動や地球温暖化対策に係る情報を発信します。
- ・ 地下水かん養のため、公共施設での雨水貯留浸透施設の整備、浸透性舗装の利用、町民・事業者への啓発を行います。

#### 取組による波及効果

- ▶ 利便性が高く、快適なまちづくり
- ▶ 防災・減災

### (3) 協働による環境保全活動のための基盤づくり

- ・ 身近な環境問題が地球に及ぼす影響を啓発するなど、各主体が自発的に環境配慮行動を実践できるよう支援します。
- ・ ふるさと学習「みずほ学」をはじめ、地域の理解促進と各地域の課題解決に向けた取組を推進します。
- ・ 課題解決にあたっては、地域の関係者と共に監視体制を強化するなど協働事業の推進につとめていきます。
- ・ 町内の環境団体やリーダーの育成につとめます。

#### 取組による波及効果

- ▶ 地域のコミュニケーションの増進
- ▶ 地域における住民同士のつながりの深化